

**押し寄せる物価高の影響が色濃く、採算は悪化
第180回中小企業景況調査(4月～6月期)**

今回調査では、物価高騰が継続する中、新年度に入り更なる値上げによる採算の悪化が目立つ結果となった。3指標とも3期連続のマイナス圏で推移し、特に小売業と卸売業は、改善傾向を示したもののDI値のマイナス幅が大きく、厳しい景況感となった。

輸出関連産業は、米国の関税措置の不透明感から慎重な見方が強く、来期の見通しは、やや悪化を見込んでいる。全業種ともに人手不足と高齢化、採用コストの負担問題は、今後も継続する見通しである。来期は、行楽シーズンと夏季ボーナスの時期であることから、消費マインドの改善に期待したい。

**今期 売上DI やや改善
来期、業況のやや悪化を見込む
製造業**

製造業の今期売上DIは、△2.9(前回△9.1)とやや改善傾向を示したが、業況DIは、△17.1(前回△15.2)と横ばいとなった。

来期見通しの売上DIは、△1.4(前回3.0)とやや悪化を示し、業況DIも、△20.0(前回△12.1)とやや悪化となった。

今期は影響が少なかったが、来期は、輸出関連中心に米国関税の不透明感を反映し、やや悪化を見込む。

**今期 売上・業況DI 横ばい
来期はやや改善を見込む
建設業**

建設業の今期売上DIは、12.5(前回15.4)と横ばい、業況DIも、8.3(前回7.7)と横ばいとなった。

来期見通しの売上DIは、0.0(前回△7.7)とやや改善、業況DIもまた、△4.2(前回△11.5)とやや改善となった。

当面は、資材の高騰や人件費、外注費の上昇、職人の高齢化など課題は多いが、来期はやや改善を見込む。

**今期 売上・業況DI 横ばい
来期は大幅な改善を見込む
卸売業**

卸売業の今期売上DIは、△7.4(前回△8.0)と横ばいを示し、業況DIも、△11.1(前回△11.0)と横ばいとなった。

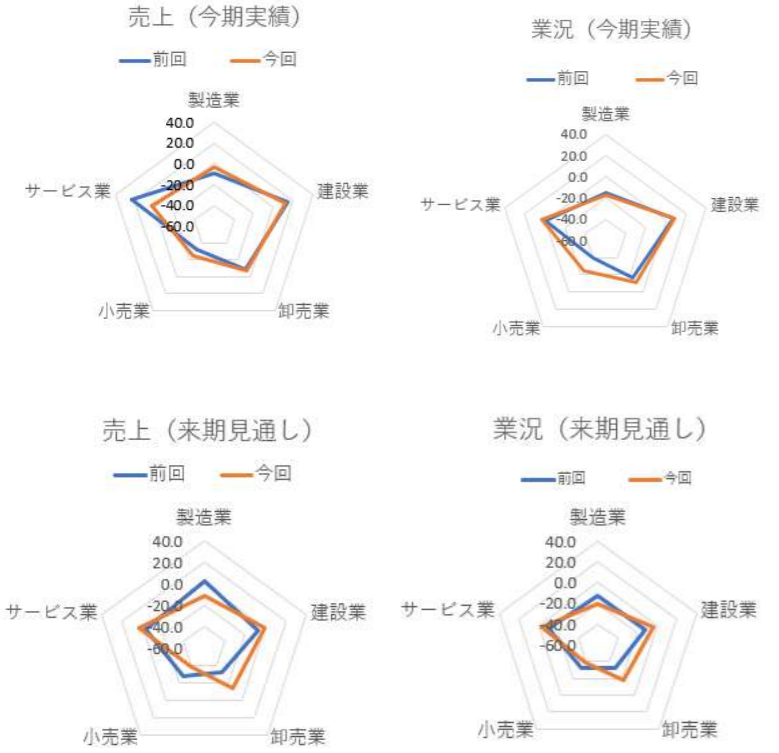
来期見通しの売上DIは、△1.8(前回△3.2)と大幅な改善を示し、業況DIは、△18.5(前回△32.0)とやや改善となった。

為替や原油価格の安定により、仕入れ価格の落ち着きが見られ、食品関連が堅調だったこともあり、来期は改善傾向を見込む。

前回調査比	売上		業況	
	今期実績	来期見通し	今期実績	来期見通し
製造	→	→	→	→
建設	→	→	→	→
卸売	→	↑	→	→
小売	→	→	→	→
サービス	↓	→	→	→

凡例 (少数点以下は四捨五入)

~-16	-15~-6	±5	+6~15	+16~
↓	↘	→	↗	↑
大きく減少 悪化	やや減少 悪化	横ばい	やや増加 好転	大きく増加 好転



**今期 売上DIが大幅な悪化
来期は改善傾向の見通し サービス業**

サービス業の今期売上DIは、3.3(前回2.3)と大幅な悪化を示し、業況DIは、3.3(前回0.0)と横ばいとなった。

来期の見通しは、売上DIが、3.3(前回△3.3)とやや改善し、業況DIも△3.3(前回△1.0)とやや改善を示した。

GWは、日取りが良かったこと、観光客が少なかったの意図が多い。GW以降は、客数、客単価も伸びず苦戦しており、不安材料が残る。

事業者からの声

- ・自動車部品メーカーとして、米国の関税、米中貿易摩擦、サプライチェーンの変遷、自動車メーカー間の競争激化の中で受注に大きな変化はないが、今後の変化に注視している。(金属加工・製造業)
- ・先行き不透明な状況と建設資材の高騰により、計画物件の見直し先送りなど、今後はどのような状況となるか予測ができない。(建築・建設業)
- ・原価から売価が変動する商材を扱っているが故の課題があるなかでどう収支を安定させていくか考えている。(生鮮品・卸売業)
- ・仕入価格の上昇が止まらず、物により前年から1.5倍～1.8倍程度まで上昇した。商品価格を上げたいがなかなか上げられなくて厳しい。(菓子・小売業)
- ・求人への反応が無く、人手不足が顕著である。原価、人件費、水道光熱費の上昇が影響大である。(専門料理・飲食業)
- ・大量仕入や大量生産のための機材導入など、少しでも利益を増やすよう頑張っている。(物産・飲食業)

